

ちょっと人権

交流教育に取り組もう！ 交流教育を楽しもう！

豊かな出会いの交流教育！「もう一度会いたいね」号

人権教育セミナー短信 No. 4 平成 17 年 8 月 10 日

学校支援部 人権教育担当

第5講座 障害者と人権

1 講演 交流教育研究・実践の再考 [和歌山大学教育学部附属養護学校 教諭 大谷博俊さん]



講師の大谷博俊さんは、障害児・者理解を深め、人権感覚を高めるための効果的な交流の在り方を研究し、実践されています。

午前中は、「交流教育研究・実践の再考—研究・実践を基にして共にめざす深まり—」という演題で講演していただきました。近年の交流教育に関する研究や知的障害児・者に対する障害のない人の態度に関する研究の動向を紹介していただき、より良い交流を進めていくうえで、押さえておきたい理論的な背景を話していただきました。

また、このような理論を踏まえた実践の一例として、和歌山大学教育学部附属養護学校における先進的な取組の一端を紹介していただきました。

なお、今回講師としてお招きした大谷博俊さんは、この8月末から、鳴門教育大学大学院障害児教育講座の助教授として勤務されています。

2 演習 顔が見える交流？ 『体験をとおして考えてみよう！』

(1)アイズブレイク

『お寿司屋さんへ行こうよ』で、グループ分けをしました。『鷲』『ライオン』『マントヒヒ』のことばの後に、2人、4人、5人のグループをつくる『猛獣狩りゲーム』をご存知ですか？

今回の『お寿司屋さんへ行こうよ』は、『猛獣狩りゲーム』の応用編です。『タコ』『マグロ』『軍艦巻き』などの新ネタも続々登場しました。参加者の笑顔と笑いの10分間。お寿司屋さんのネタでつながった1班8名のグループができあがりました。



<グループ分け『お寿司屋さんへ行こうよ』>

(2)笑顔でキャッチボール！



<笑顔でキャッチボール>

「わたしの名前は〇〇です。なぜ、この名前を呼んでもらいたいかというと・・・」

この活動では、「なぜ」がポイントになります。グループのメンバーに名前を覚えてもらえるように各自が工夫して自己紹介をしました。

この活動を終える頃にはみんなが笑顔になります。ボールを投げてもらうことで、笑顔をもらう嬉しさと名前を呼んでもらえる嬉しさを同時に感じる活動です。意識せずとも参加者の名前を覚えて、互いに『つながる』ことができる活動です。

活動の後には、それぞれのグループで振り返りました。交流学習のときにやってみよう！

(3)人権教育資料集2(障害者と人権)「ぬくもり」の活用に向けて

注目・・・お待たせいたしました。[人権教育資料集2\(障害者と人権\)「ぬくもり」](#)を高知県教育センターのホームページにアップしました。

3 フォーラム より良い交流のあり方を考える 今わたしに何が出来る？

【話題提供】高知県立高知若草養護学校 上村珠津子教諭

「高知若草養護学校と土佐市立戸波中学校との交流教育の実践から」

高知県教育センター学校支援部 人権教育担当 平石勝久

「人権教育資料集「ぬくもり」の作成からみえてきたこと」

【指定討論者】和歌山大学教育学部附属養護学校

大谷博俊教諭

【司会】学校支援部チーフ(人権教育担当) 大西雅人



<話題提供者>



<司会、指定討論者>